

経営工学部会・技術士業務研究会 合同見学会議事録

経営工学部会 部会長 毛利 悦造

技術士業務研究会 部会長 中塚 勉

実施日 平成22年 4月 9日(金) 午後1時50分より5時30分

見学先 阪神高速道路(株) 管制センター及び震災資料保管庫

出席者 経営工学部会：毛利、新庄、坂井、杉本、増田、花田、河内、末浪、有吉、池田、
前川*、大坂 (12名 :(*) 懇親会欠席)

技術士業務研究会：中塚(**)、西田、平井、福岡、武藤、齋藤、林、山本、
浦崎、松川 (10名 :(**) 見学会欠席)

1. 阪神高速道路の変遷

昭和37年5月 阪神高速道路公団設立

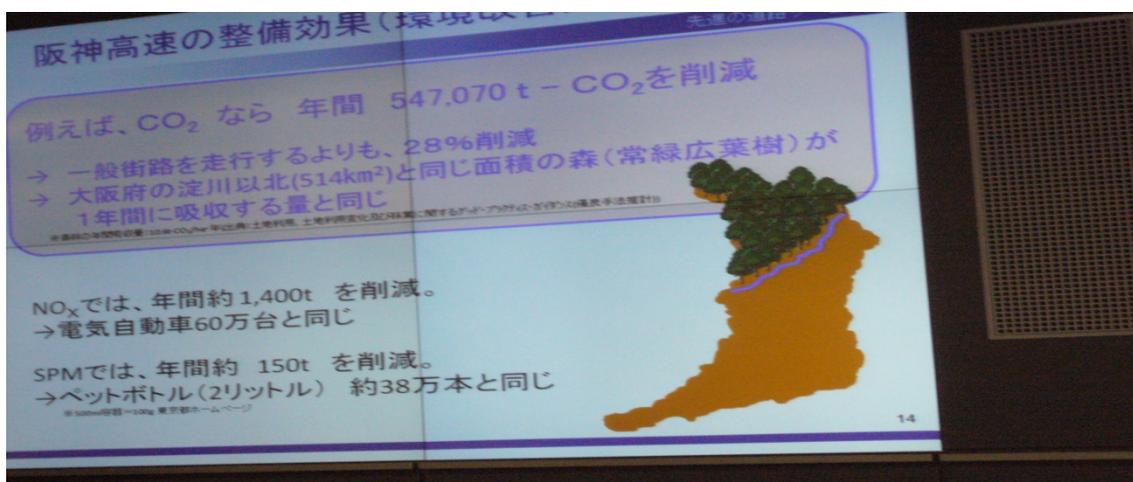
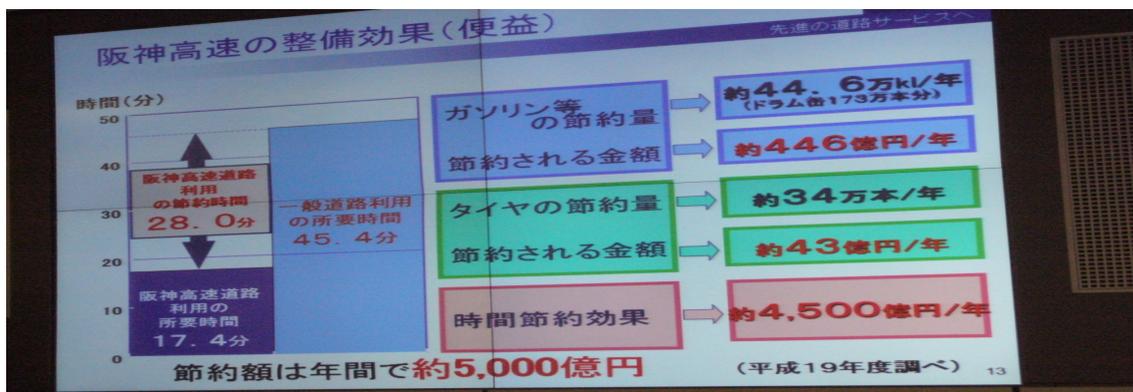
昭和39年6月 土佐堀一湊町間 2.3km の高速道路供用

平成17年4月 阪神高速道路(株)設立

現在 総延長約 242km、(交通量 1312万台キロ/日、貨物輸送量 87万 t/日)

2. 阪神高速道路の経済効果

ガソリン・タイヤ・走行時間等の節約効果として年間 5000 億円の経済効果を考えている。
このほかに、CO2削減効果も大きい。



3. 管制センターの役割

情報収集、情報処理、情報提供

4. 管制センター見学

大きな部屋の前面には阪神高速道路の地図、その下にはモニターテレビが並んでいて要所の状況がリアルタイムで見えるようになっていた。地図には、混雑状況等が、色表示されていた。正面左には壁一面の大きなスクリーンがあり、各所の交通状況を見られるようになっていた。その前に3組の制御卓があり10名が状況を監視していた。



京都市を含む阪神圏には、観光地や産業、港湾、空港などの重要な拠点（サブシステム）があり、これらサブシステムを阪神高速道路が有機的に結びつけて、大きなシステムを形成している。これらシステムの要のところを担当されている様子を知ることができた。

今後は、府や県などの行政と一般道路網も含めて、経済効果の高いシステム構築を目指して戴きたい。関西圏全体をシステムに含めることで大きな経済効果が期待できる。



5. 震災資料保管庫の見学

平成7年1月17日未明にかけて経験したことのない大きな地震に見舞われてた。地震で失ったもの、伝えるべきもの、そして地震から得たものを伝えるために保管庫で展示されている。詳細は、「<http://www.hansin-exp.co.jp>」を見て下さい。

地震の振動波形 ピーク値 443GAL

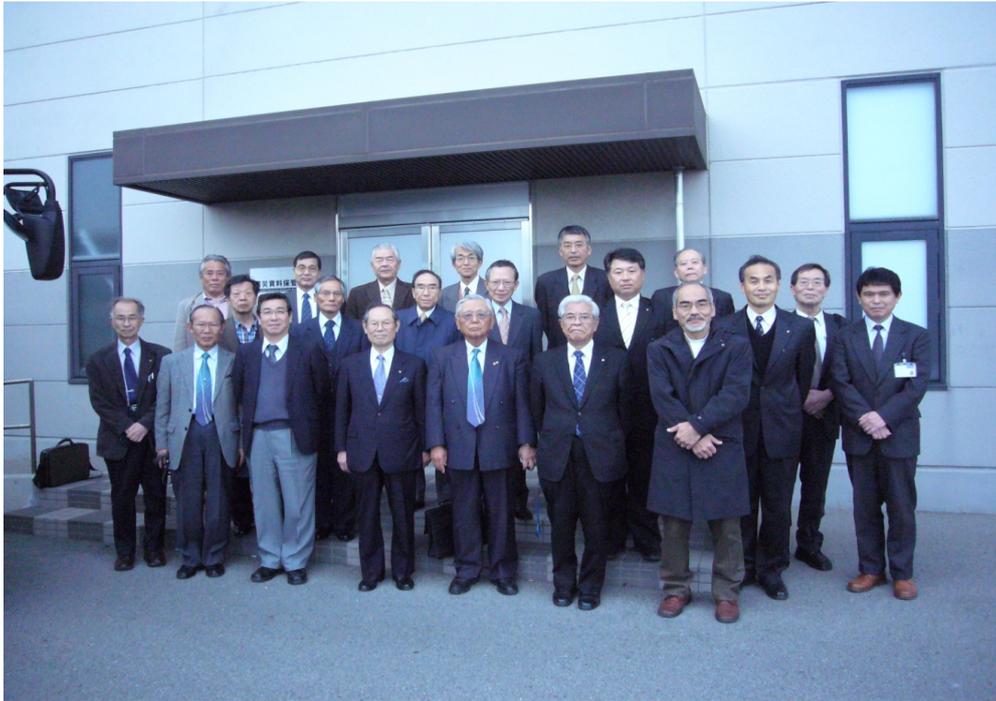
(1 gal = 1cm/s², 1g = 980cm/s² = 980gal)



円柱状橋脚が地震の振動圧のため中央部で膨らんだのを、早急に復旧使用のため補強されている。



地震災害の恐ろしさ、自然力の想像を絶する大きさを痛感した。この教訓を、これからの構造物の設計に生かし、安心安全の実現に活用できる貴重な展示場であると思った。



<この合同見学会を終えて 毛利部会長>

管制センターは情報収集のためならばもう少し工夫が必要なのではないかと思いますが、震災資料保管庫の迫力はすばらしいものでした。被害を風化させないためにのみならず、構造技術の発展に有効に活用されるべきものと信じます。両部会 益々発展のため、皆様のご協力をお願いします。
(集合写真は、林先生の写真を使用させて頂きました。)